

佐藤家住宅・旧佐藤宗家等見学会  
蚕種の里「上塩尻」まちあるき  
実施記録&未来に向けて



藤本蚕業デジタルコモンズ

<https://d-commons.net/fujimoto-dc/>

ネットで御覧いただけます

令和4年度長野県地域発元気づくり支援金事業  
「藤本蚕業資源活用事業」

2023年3月31日

藤本蚕業プロジェクト

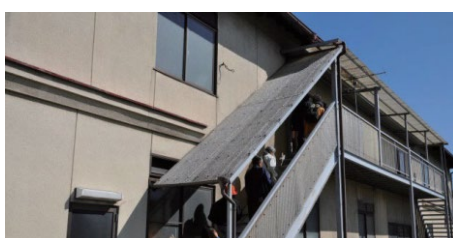
(事務局：長野大学前川道博研究室)

## 1. 佐藤家住宅(三ツ引)・旧佐藤宗家等見学会案内

令和4年度長野県地域発元気づくり支援金事業「藤本蚕業資源活用事業」

### 佐藤家住宅(三ツ引)・旧佐藤宗家/藤本蚕業歴史館見学会

蚕種の里とも呼ばれた上田市上塩尻に残る全国的にも希少な蚕種製造施設/蚕種製造民家を見学し、建物に触れながら建築上の特色や歴史的背景などを学び、地域づくりに活かす。見学会の様子をデジタルアーカイブ化し、全国に向けても情報発信する機会とする。



左：佐藤家住宅(上田市立博物館所蔵『日本博覧図』[1897]から)、右：藤本蚕業歴史館

【見学内容】佐藤家住宅(三ツ引)(2021年国指定有形登録文化財登録)、旧佐藤宗家(蚕室2棟と邸宅跡)、藤本蚕業歴史館(旧藤本蚕業社屋)を見学。藤本蚕業歴史館展示室を事前開放。

【日時】2022年10月29日(土) 14:00～16:00 雨天決行 (歴史館の事前見学 13:00～)

【場所】藤本蚕業歴史館に集合(長野県上田市上塩尻248) 駐車場あり

【主催】藤本蚕業プロジェクト(代表：前川道博[長野大学企業情報学部教授])

【協力】西部地域まちづくりの会 自然・生活環境部会、上塩尻自治会、上塩尻今昔の会、上田市生涯学習・文化財課

【定員】20名(先着順) ※事前に見学を申込ください。

【対象者】塩尻地区にお住まいの方、地域づくり・建築・歴史などに関心のある方

【参加費】無料

【講師】梅干野成央(ほやのしげお)氏(信州大学工学部建築学科准教授)

勝亦達夫(かつまたたつお)氏(信州大学キャリア教育サポートセンター助教)

【情報サイト】『藤本蚕業アーカイブ』<https://d-commons.net/fujimoto-archive/>

【見学申込/問い合わせ先】

藤本蚕業プロジェクト見学会担当

清水国寿(しみずくにとし) しみず建築工房代表

TEL:090-4700-2695(清水) FAX:0268-72-5078 MAIL:info◆shimizu-atelier.net

【現地マップ】

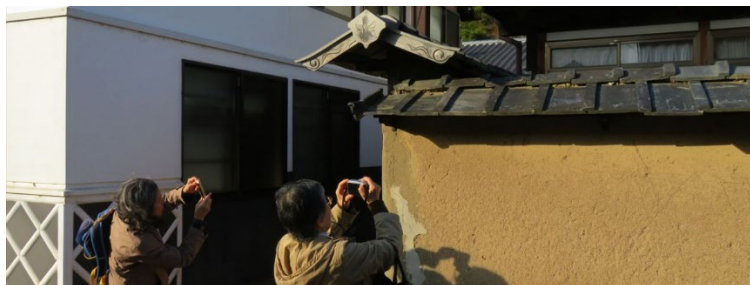


## 2. 蚕種の里「上塩尻」まちあるき案内

令和4年度長野県地域発元気づくり支援金事業「藤本蚕業資源活用事業」

### 蚕種の里「上塩尻」まちあるき

日本一の蚕種製造の中心地だった上田市上塩尻は「蚕種の里」とも呼ばれました。塚田与右衛門、清水金左衛門、藤本善右衛門縄葛ら著名な蚕種製造家を輩出しました。上塩尻には現在も蚕室を備えた民家が数多く残っています。当日は上塩尻をまちあるきし、その歴史ある街並みや建物などを探訪します。撮った画像はネットに出して全国の人にも伝えましょう。



【見学内容】上塩尻の蚕種製造民家、街並み、猫瓦（それ何？）などをめぐります。

【日時】2022年11月26日(土) 13:00～15:00 雨天決行

【場所】藤本蚕業歴史館に集合（長野県上田市上塩尻248）駐車場あり

【主催】藤本蚕業プロジェクト

【協力】西部地域まちづくりの会 自然・生活環境部会、上塩尻自治会、上塩尻今昔の会、  
上田市生涯学習・文化財課

【定員】20名（先着順） ※事前に参加を申し込んでください。

【対象者】塩尻地区にお住まいの方、地域づくりなどに関心のある方、親子づれ歓迎

【参加費】無料

【案内】前川道博（長野大学企業情報学部教授）、地元有志

【情報サイト】『西部地域デジタルマップ』 <https://d-commons.net/seibu/>

※ご自身が撮った画像はデジタルマップに投稿できます。

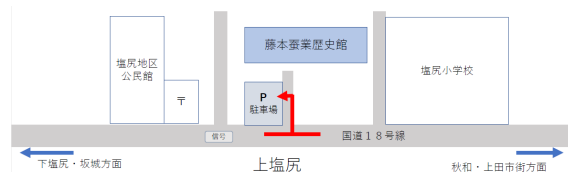
【参加申込／問い合わせ先】

藤本蚕業プロジェクトまちあるき担当

清水国寿(しみずくにとし) しみず建築工房代表

TEL:090-4700-2695(清水) FAX:0268-72-5078 MAIL:info◆shimizu-atelier.net

【現地マップ】



### 3. 佐藤家住宅(三ツ引)・旧佐藤宗家の今昔

【1-1】佐藤家住宅(三ツ引) 1897年 (佐藤尾之七邸宅(日本博覧図 1897 所載))



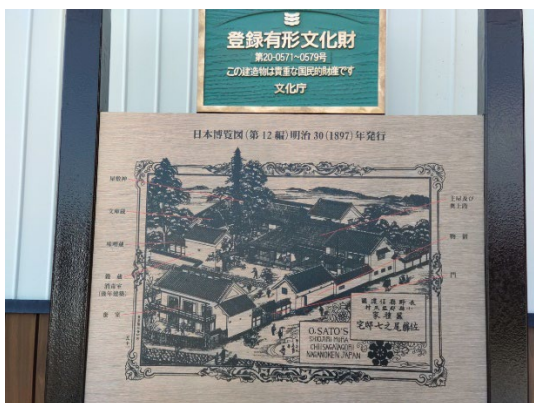
佐藤尾之七(さとうおのしち)家は、江戸時代から上塩尻村（現在の上田市上塩尻）で代々蚕種製造業を営んできた佐藤本家の分家に当たる。1727(享保 12)年、本家から分家し六代嘉平次を襲名して上塩尻村の庄屋を営んでいた。尾之七は佐藤本家の当主であった藤本善右衛門繩葛(つなね 1815-1890)の四男で、分家の佐藤嘉平次家の養子となった。尾之七は 1908 年、佐藤本家を宗家とする佐藤一族が共同出資して発足させた藤本蚕業合名会社の設立に中心に関わった。大正期、上田蚕種株式会社の社長となり、蚕種業界の中心人物として活躍した。

図版と説明文は「みんなでつくる信州上田デジタルマップ／信州上田学アーカイブ」から転載した。<https://d-commons.net/uedagaku/detail.php?id=3080>

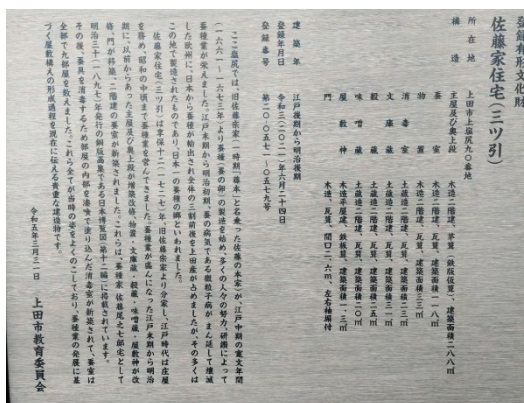
【1-2】佐藤家住宅(三ツ引) 2022 年 (10/29 見学会の風景、2021 年登録有形文化財に登録)



▲佐藤家住宅(三ツ引) 1897 年当時とほぼ同じ状態で現存する

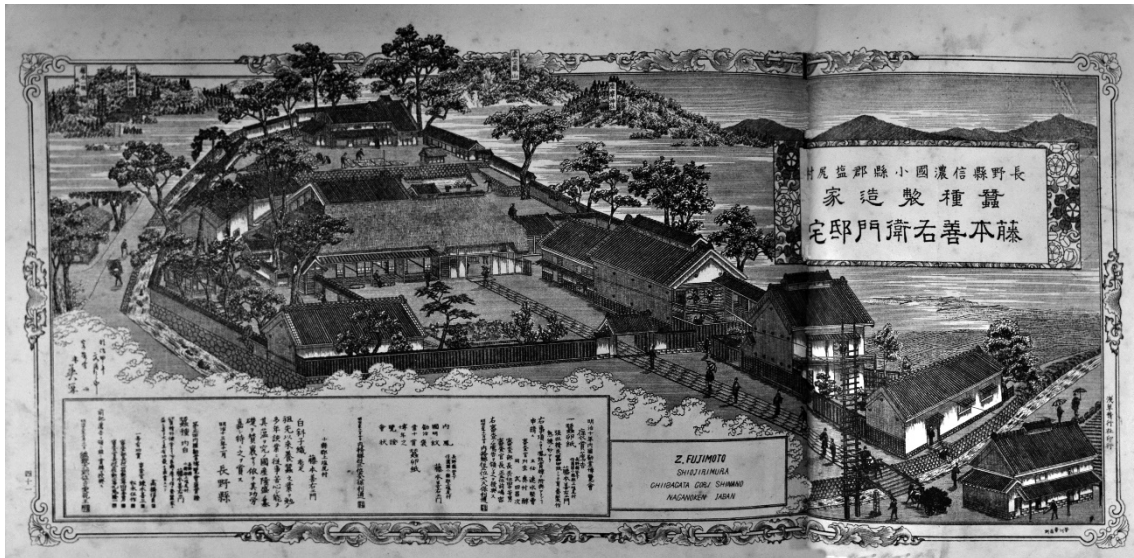


▲登録有形文化財のプレート(2023 年)



▲上田市教育委員会による説明板(2023 年)

【2-1】旧佐藤宗家 1897 年（藤本善右衛門邸宅(日本博覧図 1897 所載)）



藤本善右衛門(ふじもとぜんえもん)は江戸時代から上塩尻村(現在の上田市上塩尻)で代々蚕種製造業を営んできた佐藤本家当主の世襲名である。昌信(まさのぶ 1773-1822)に始まり、保右(やすすけ 1793-1865)、縄葛(つなね 1815-1890)、信汎(のぶひろ 1850-1905)が藤本善右衛門を襲名した。

「藤本善右衛門邸宅」は、佐藤本家の邸宅である。佐藤本家は「藤本」を屋号としていた。1897年当時の当主は信汎(のぶひろ、1850～1905)である。

邸宅跡は現在は更地となったが、薬井門(1932 頃再建)、外堀、蚕室 2 棟が残っている。



▲現在も残る蚕室 2 棟

〔図版は上田市立博物館所蔵の『日本博覧図』(1897)から撮影した。〕図版と説明文は「みんなで作る信州上田デジタルマップ／信州上田学アーカイブ」から転載した。

<https://d-commons.net/uedagaku/archive1?c=&p=3078>

【2-2】旧佐藤宗家 2022年 (10/29 見学会の風景)



▲旧佐藤宗家の敷地 (現在主屋は取り壊され広大な敷地が残っている)



▲旧佐藤宗家の蚕室 (佐藤家住宅の向い)



▲埋薪(まいしん)と呼ばれる暖房設備

## 4. 佐藤家住宅等見学会 2022/10/29 実施



藤本蚕業プロジェクトによる佐藤家住宅等見学会を実施しました。見学した建物は佐藤家住宅(三ツ引)[国登録有形文化財]、旧佐藤宗家の敷地跡、蚕室2棟です。14:00 から 16:00 過ぎまでたっぷり約2時間、これらの建造物を調査された信州大学の梅干野成央先生、勝亦達夫先生の解説をいただきながら見学をしました。



▲主屋



▲奥上段





▲門



▲蚕室



▲物置



▲消毒室



▲穀蔵



▲屋敷神（稻荷神）と石垣

## 5. 蚕種の里『上塩尻』まちあるき 2022/11/26 実施

### 【まちあるき概要】



11/26(土)、藤本蚕業プロジェクト主催による「蚕種の里『上塩尻』まちあるき」を実施しました。上塩尻のまちあるきは藤本蚕業プロジェクト発足以前から地域探訪等の目的でこれまで何度となく実施されてきました。今回のまちあるきは「佐藤家住宅(三ツ引)」が国登録有形文化財に登録されてから実質的に最初のまちあるきです。地元上塩尻の住民の方々と交えて参加者それぞれが途中途中解説をしながら、または参加者どうしで対話をしながら上塩尻をめぐるしました。

13:00、藤本蚕業歴史館前に集合し、佐藤家住宅(三ツ引)、旧佐藤宗家の蚕室、旧佐藤宗家の屋敷跡、旧馬場邸(現原邸)、清水卓爾氏邸、清水邸(加賀の殿様が使った雪隠)などをめぐりました。参加者の探訪への関心は尽きることがなく、地元の方々も改めて地元の歴史を感じられた様子でした。発見・収穫の多いまちあるきとなりました。



### 【蚕種製造民家】

上塩尻には蚕種製造を営んでいた屋敷の多くが現在も残っています。その特色は2階建であること、建物が細長く大きいこと、2階の屋根の上に越屋根（小さな屋根）が備わっていることなどです。古い家々ながら現在も内部をリフォームなどして暮らしているお宅が多いことに感心をします。全国的に

見ても蚕種製造民家が群としてこれだけ数多く残る地域は上塩尻だけではないかと思われます。その隣の下塩尻にも蚕種製造民家は多く残っています。改築することなく、古い建物をリフォームして現代においても住環境として活用するこの地域の知恵にも感心させられます。



### 【家々の庭】

上塩尻まちあるきで訪問できた蚕種製造民家の家々に共通することは、立派な庭を備えていること。母屋は蚕種製造に適した蚕室を備えているため、大きく細長い構造をしている点に特色があります。その前面には庭があり、母屋の構造に沿う形で細長く庭が広がっています。馬場小路の旧馬場邸、清水卓爾邸は共に屋

敷の構造が特に類似していました。もう一つの特色は庭の手入れが行き届いていること。庭木の剪定など庭の維持には手間がかかります。こうした庭を備え、かつその手入れが行き届いた姿の庭にすることがその屋敷のステータスでもあるこの地域の文化ではないかと思えます。



## 【〇〇小路】

上塩尻は北国街道をメインストリートとし、集落内にくつもの小路(細い道筋)が通っています。地元の人たちはこれらの小路に名前を付け区別して呼んでいます。

★馬場小路

★寺小路

★毘沙門小路

★広小路

★岩井小路

★山小路

馬場小路は小路に面する家々がいずれも馬場さんであったことからそう呼ばれるようになりました。現在、馬場さんではないお宅に替わってはいますが、その呼び方が受け継がれて歴史を伝承しています。



## 【北国街道】

上塩尻の中心部である大村は北国改造に沿って集落が展開しています。上塩尻は千曲川に面し、洪水の常襲地でもありました。洪水に見舞われた集落が太郎山系の裾野に移ったとも伝えられています。城下町、宿場町、商業の町は全国の街道筋にはどこにでも見られますが、上塩尻の蚕種製造民家で構成さ

れる集落は極めてめずらしい。おそらく全国でここだけではないでしょうか。歴史的景観を備えた美しい町並みにも感心します。



## 【石垣】

上塩尻まちあるきで改めて参加者が注目したのが見事な石垣群です。上塩尻の大村は北国街道に沿い、かつ、山麓の傾斜地に位置しています。傾斜地に展開する家々には段差があり、それぞれの家々はお城の石垣を思わせるような見事な石垣が築かれています。蔵の土台などにも礎石があり、それぞれに特徴があり

ます。背後の太郎山山系から切り出された緑色凝灰岩が多く使われているらしい。これらの石垣の多くは、かつて高遠の石工が築いたとも聞いています。生半可な聞き情報ではなく、その歴史的背景などしっかりと調査する必要があると改めて認識をしました。



## 【猫瓦】

上塩尻＝猫瓦のまち、といっても過言ではありません。

上塩尻の家々に特徴的に存在しているものに「猫瓦」があります。それぞれの家々で蚕種製造や養蚕を営んでいた各家の屋根や塀の瓦には、ネコを表徴した瓦があります。その中でも、毘沙門通りに面する佐藤家の屋敷には1階の屋根に猫瓦が、しかも2つ前後して存立し

ています。蚕の天敵であるネズミの侵入を防ぐという意味でのシンボリックな猫瓦の存在感を最もよく示しています。まちあるきをしながら猫瓦を見つけるたび、参加者がそれぞれ猫瓦を写真に収めていました。



### 【西側の板壁】

上塩尻は千曲川下流域（西方向）から吹き込む風が強いため、桑の葉に付く蚕の害虫であるカイコノウジバエを吹き飛ばすため質のよい桑が取れることが蚕種製造に適していたと言われていいます。実際にどの程度、西風が強いのかはわかりませんが、風が強かったことを物語っているのが建物の西側の壁一面に張られた板壁です。岩井小路にあるこの馬場邸の建物に西壁の板壁が残っています。風に吹きつけられると漆喰壁が傷むらしく、板壁で覆ってそれを防いでいるということです。

この板壁は景観的にも特色があり、写真集『民家の風貌』（小林昌人著、1994年）にも馬場家のこの板塀の景観が収録されています。

この板壁は景観的にも特色があり、写真集『民家の風貌』（小林昌人著、1994年）にも馬場家のこの板塀の景観が収録されています。



### 【モリス先生と一緒に】

上塩尻まちあるきでは、建築史学のマーティン・モリス先生（千葉大学名誉教授）をお迎えして一緒にまちあるきし、古建築の保全・活用に関するレクチャーもしていただきました。モリス先生は上塩尻の蚕種製造民家の建築史的調査をされた方で、上塩尻の建築・景観に対しては特別の関心を持られています。

持られています。

モリス先生の母国イギリスは歴史的な建造物である古建築を民間の意思で保全活用する「ナショナルトラスト」が発達した社会です。日本では歴史的建造物を保全し活用しようという気運は少ないのが実情です。上塩尻では「佐藤家住宅(三ツ引)」が2021年、上塩尻では初めて国登録有形文化財となりました。これを機会に、上塩尻の古建築、歴史的景観の貴さが再発見され、地域づくりに活かされていくことを願いたいものです。

## 6. モリス先生のメッセージ 佐藤家住宅等をいかに残し活用するか

「蚕種の里『上塩尻』まちあるき」の後、マーティン・モリス先生から佐藤家住宅等をいかに残し活用するかについてメッセージをいただきました。全文を掲載いたします。

### 上塩尻 Walking を考慮して

Martin Morris

上塩尻とその家屋の歴史的価値は日本の織物産業の重要な一部に当たる絹生産の基盤となる養蚕に関連して認められています。北國街道沿いに家屋が立ち並ぶ上塩尻の集落は農村ながら、その立地も暗示するように、商業にも深い関わりをもって、蚕の種の商売から、栽培そのものとその延長での商売に移り、その活動にデザインを合わせた江戸時代末期～明治時代の独特な家屋はまだ多く残っています。

しかし、現代における活用と維持が難しくなって、残すのにどうすればよいかというのは大変な課題となっています。建築保全の今までの効果を記すと、上塩尻は日本の絹産業の発展において重要な位置を占める集落であることが認められた結果、先ず、佐藤家住宅が登録文化財に指定されることとなりました。また、次に、佐藤家と似たように、庄屋も務めた家柄のある茅葺の旧滝沢家住宅の指定の可能性もあると聞きました。

とりあえず、佐藤家住宅の登録が本格的な出発点となりました。それを第一歩としたことを選択はとても相応しいと思います。なぜなら、佐藤家住宅の場合、主屋だけでなく、数棟の蔵と蚕室も完全に残っています。しかも、1897年の銅版画（佐藤尾之七邸宅）を見ると、すべての建物の存在がすでに確認でき、19世紀の末までに残存の建物が建っていたことがわかります。また、主屋は当初は茅葺で、塩尻で養蚕が徹底して始まる前の家屋（庄屋のレベルではともかく）の様子と養蚕に合わせるための改造（土間の上の瓦葺の2階蚕室）の有様をともに伝えます。建物も代々管理され、保存状況も基本的に良いです。ただ、当然のこととして維持管理の必要が続き、さらに色々な手入れを必要とします。

次の問題は、文化財となっているこの建物をいかに活用するかです。

日本における文化財指定を受けた歴史的建築の活用という観点から考えれば、塩尻とその蚕種の売買と栽培を伝える資料館＋塩尻蚕種業最盛期の養蚕から絹織物の作成・着彩のプロセスの体験工房的な施設としてというアイデアがすぐ思い浮かんできます。

また、佐藤家住宅の敷地の奥の方にある旧佐藤宗家（元々の佐藤本家）の跡地と組んで、一つの施設にするということも考えられるでしょう。失われた旧佐藤宗家住宅（藤本善右衛門邸宅）の外観を銅版画から具体的に把握できるので、新たに用意する建物をその外観を再

現したものとして設計しながら、内部を施設に必要な様相を入れる工夫をすることも一つの approach として考えられます（その中身は、かなり広い範囲の可能性があり、しっかり考えるべきと思いますが、例えば、展示スペース、カフェ、事務室、研修室、等々か）。土蔵を工夫して、資料保管に利用する等、他にも色々考えられます。他の地域における再生の事例を見ると、inspiration になりえると思います。

このようにして、一つの中核部分(core, nucleus)を実現できたら、他に空き家となっている家屋を見学・体験に来られる方々の宿泊施設（有料の民宿を兼ねて？）として活用できるかもしれません。土曜日に紹介された、感動を起こす伝統的な織物工房が既に塩尻に存在し、そのような活動を増やしたり、拡大したりすることも考えられます。また訪問客のカフェや食堂、一部に絹関連の土産を売る店舗に再生すれば、生き生きとした伝統的な環境の誕生が窺えます。また、塩尻における色々な活動に来られる（と期待する）観光客などの駐車場の必要も考えられ、それも国道沿いに用意する計画も必要でしょう。幸いに、集落に歩けるほど近いところに、西上田駅があり、車を持っていない方々でも、上田市から塩尻まで簡単に移動できます。

ただ、この絹織物の伝統の遺跡は、塩尻に限るものではもちろんなく、上田にも日本の絹織物産業関連の施設はいろいろ残っています。その多くは、塩尻よりのちの時代のものと理解しております。市内の施設と塩尻の施設がうまく組めれば、織物産業の歴史的展開を伝える総合施設の成立も考えられます。さらに、東京方面に少し戻ったところに、日本の絹産業の輸出に向けた工場化の過程を伝える富岡製糸場が文化財と世界文化遺産として残され、上田周辺の施設もさらにそれと組めば、より大きな歴史を伝える、古い技術に出会う体験の提供もできる絹産業を伝える、テーマで繋いだ施設の開発も考えられます。中学生から、高校生、大学生、趣味として関心のある大人などの教育をはじめ、観光関連の活用も考えられます。

今まで、日本の各地域において、観光の拡大、教育の充実をともに念頭に置き、このような進め方を県や市のレベルで求め、地域活性化を、歴史を通して、目指すことが一つのアプローチとして重視されたと思います。また、すぐ思いつくアプローチとなりました。

しかし、コロナの関係で実現不可能となった東京オリンピックを囲む色々なイベント、世界情勢の益々の不安化、景気後退、温暖化対策に伴うであろう石油使用の制限を考えると、上記のような grand plan が実現しにくい、あるいは実現したとしても、成功するかどうは疑問になったと言わざるを得ません。また、円安で外国から観光客が増えると期待しても、国際インフレの影響で、人々が遊びや体験に利用できるお金も現在よりも減るとも考えられ、少なくともしばらく、上記のような grand plan の実現は考えにくい。



その反面、コロナの影響で Zoom 等の可能性が認識され、remote working が具体的に成り立つということが国際的に認められていると思います。よりヘルシー且つエコなライフスタイルを求めて、自然が豊富に周りにあり、伝統も持っている田舎を自分の本拠地にした高いポテンシャルの高い若者たちを呼び寄せることができれば、地域の活性化だけでなく、その中に、古民家の再生をしたい人もいれば、塩尻の古民家の再生も十分に考えられると思います。パソコンを前に自宅で働く Remote worker に加えて、その人たちを market と考えて、住まいに兼ねて atelier のようなものの成立を目指す人に、自由に利用できる 2 階を備える広々とした養蚕家屋は大変魅力的に見えると言わざるを得ません。そのチャレンジに乗る人たちも、地域の活性化に大きく貢献できる可能性もあります。

最初に述べた、「テーマパーク的な大型な歴史プロジェクト」よりも、そのような方々が起こせるような活動で、古建築をかなり活用する結果として、伝統的建築の技術の復活も起こせる可能性があるかと思えます。そうすると、そのような大工の技術を持っている工務店も増えるか拡大することで、日本が以前に持っていた、環境にやさしい計画的にも美的にも優れていた建築伝統が復活され、環境により調和する生活を各地域に導けるのではないかと思います (Lutyens の 1925 の文書から窺える、彼のイギリスに対する夢のように: I earnestly hope that architects and builders will take heed and benefit so that our country will become yet more beautiful, and the prevailing methods that so mar our country will cease)。その中で、reversible development (元へ戻せる開発) も求めるべきと個人的には考えております。伝統的な建て方を参考にすると十分に可能となるはずで、土地の扱いを flexible にし、国際的に、これから考慮しないといけない点だと考えています。そうしないと、人類の人口の極端な増加をコントロールができて、余裕をとり戻したとしても、余分に開発されたところを自然に戻すことはできません。私の発表の後、イギリスと日本の人口と面積の比較に関する佐藤修一さんからのご質問にお答えした時に、日本の伝統的建築が示す「足跡の軽さ」と私が呼んだ特徴です。

まとめますと、大きな視点で考えると、コロナや戦争、災害の危険や資源へのアクセスからみた集中型都会の危険と閉鎖性の認識の結果、日本を含めて、国際的に人口を数の少ない巨大な集中型大都会から、より小型な核を囲む基本生活基盤の供給に耐える分散型の形式への変化が次第に行われる望ましさと可能性が見直されつつあると言えます。実際にそうなりましたら、上田とその周囲の村落はかなり魅力を持っていくと思います。ただ、それを起こすことは、なかなか個人のレベルでは難しいということは確かです。むしろ、上田市のレベルで、そのようなことをしたい人たちを呼び寄せる政策を考えることぐらいだけはとりあえず実際にできることの限度でしょう。出発点にすぎませんが、出発点にはできます。

個人的なレベルでは、建築界において活用中の工務店や設計事務所を持っておられる方でも、例えば、古民家の活用に関心のある、日本民家リサイクル協会などの組織に関わり、

情報交換をすると効果的にでもなるかとも思います。

このような大きな視点での変化は時間がかかるでしょう。そう考えますと、佐藤家住宅の具体的な活用を別問題として扱うのがよいかとも思います。なぜなら、文化財に指定され、塩尻の近世後期から近代初期の歴史を伝えるものとして認められ、また、施設全体を考えると、見事に完全な状態で残っていますので、優れた文化遺産であることは確かです。そういう意味で、前のモデルに戻って、塩尻の core として特別扱いをし、歴史的な施設にするのが、可能なら、よいという論理も成り立ちます。しかし、周りの景観を生かすのに、全てを同じ歴史的なテーマに繋いでいくと考えず、むしろ、より柔軟に、何かの atelier などを成立したい人を呼び寄せ、古建築を活用していただき、塩尻の独特な景観をそのように生かすのが目指すべき方向ではないかと思っております。それを目指して、古建築を取り壊すのではなく、利用することも視野に入れ、塩尻において、義務にして、また、新築するなら、塩尻の建築景観に合うようなデザインガイド（信州大学で作成？）に合わせて建てるなどを求めることも相応しいかとも思います。

伝統的な様式を利用しながら、殆どの現代の生活に必要な機能を取り入れることができることを、先月、コロナ以降初めて観光的な旅を息子たちと一緒にいったとき、強く認識しました。京都、岐阜などで、伝統的な様式において、うまく冷房やその他の現代的要素を取り入れていて街並みに出会いました。

実は、11月27日（日曜日）、上田を去る前に、何年かぶりに柳町まで足を運び、その中を歩き、その整備のレベルにびっくりしました。Too sanitized という判断があるかもしれませんが、そこに立って、その建築の要素を見て、日本の伝統建築の全体から詳細までの美しさに改めて感動いたしました。また、塩尻の家にあるうだつと瓦屋根や軒下のデザインなどの由来は直接に上田にあったことも強く感じました。日本の伝統的町並みがいかにきれいな景観を提供するのかということを感じました。また、その美しさと一緒に住むことがいかに贅沢であるかということも感じました。材料は単に木と土と石灰と焼いた粘土の瓦。現代の材料として、主にガラスは重要であり、挿入する必要を認め、枠などをうまく廻りに合わせれば、特に違和感はありません。

やはり、観光のため上田を訪れる人だけを考えて柳町のようなところを用意するのはもったいないです。上田とその周辺に住む人の日常に入れるべきと思いました。そして、あちこちに残っている伝統的建物は当然その雰囲気をもたらします。

これから、色々なチャレンジが待っているに違いないと思いますが、柳町を見て、塩尻も、色々な活動の優れた舞台から、住む人の良い日常生活環境として生かせるべきと強く感じて、その出来上がりを大いに応援し、期待しております。

## 7. 蚕種の里「上塩尻」の歴史と文化を未来へ

(次頁以降にスライド資料を掲載します。)

# 蚕種の里「上塩尻」まちあるき・事後考 歴史と文化遺産を未来へ

令和4年度長野県地域発元気づくり支援金事業  
「藤本蚕業資源活用事業」

2023年1月31日

## 藤本蚕業プロジェクト

### 蚕種の里「上塩尻」の 歴史と文化遺産を未来へ

- ・ 蚕種の里「上塩尻」
  - 歴史ある蚕種製造の中心地
  - 全国的には稀有な蚕種製造民家群
- ・ まちあるきとモリス先生との対話を受けて
  - 上塩尻ってどんなところ？ まちあるき映像から
  - 蚕種製造ってなに？
  - 上塩尻から輩出した蚕種製造家
  - 上塩尻の歴史・文化資源の評価
  - 上塩尻をめぐる調査研究と地域づくり活動
  - 藤本蚕業に代表される上塩尻の資源活用
  - 未来に向けて

## 蚕種の里「上塩尻」

- ・江戸時代から蚕種製造の中心地
- ・優れた蚕種製造家を輩出
- ・現在も残る蚕種製造民家群：越屋根が特色



## 蚕種の里「上塩尻」北国街道沿い



# 蚕種の里「上塩尻」歴史的風致



## 上塩尻のブレイクしない地域課題

有識者・有志からの関心は高いがよそ者である  
外から騒いでいるにとどまる

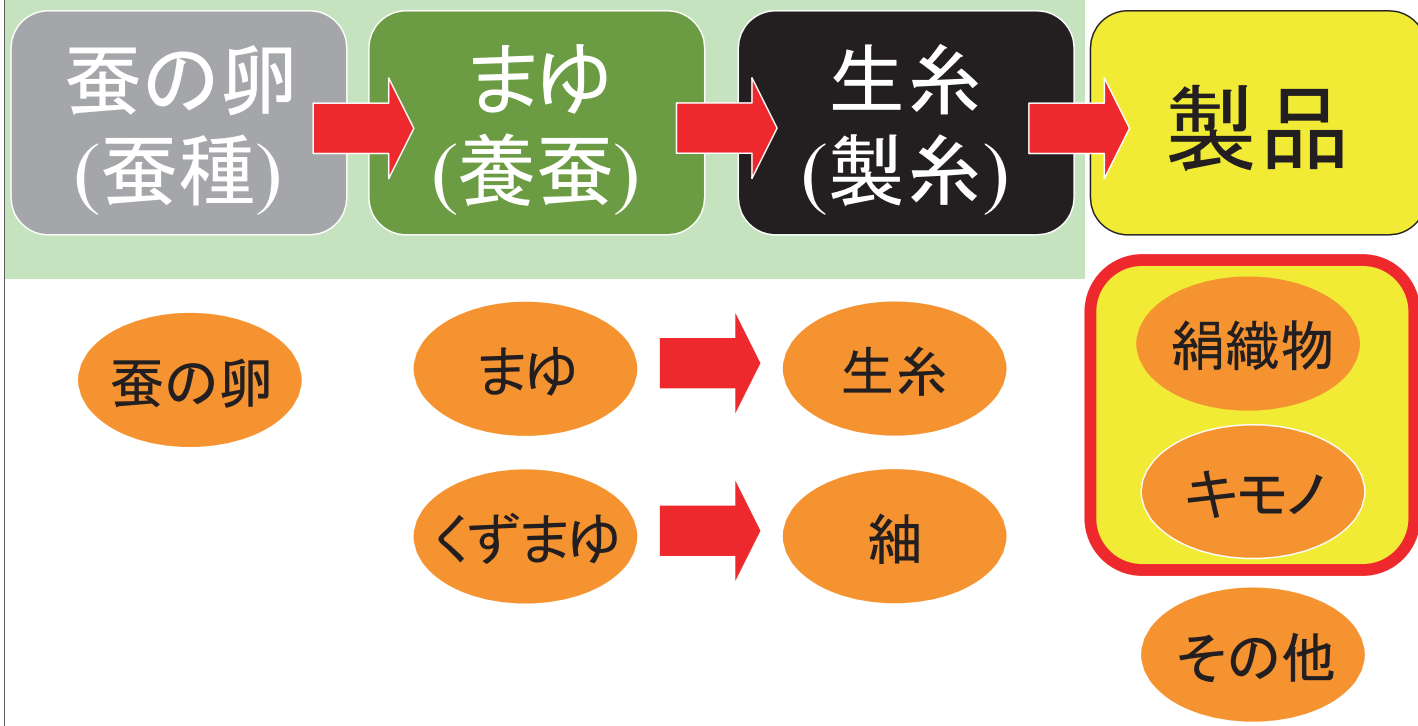
住民・市民の関心は低い  
(内部から盛り上がらない)



本日の課題提起  
蚕種の里「上塩尻」の歴史と文化遺産を未来へ

# 蚕種（蚕の卵）製造は蚕糸業の源泉

## 蚕糸業



# 蚕種製造 = 交尾した蛾の卵を取る



上田蚕種で撮影



藤本蚕業歴史館の展示

# 蚕の卵 催青(ふ化させる)



## 上田蚕種株式会社

現役の蚕種 (カイコのタマゴ) 製造企業





# 上塩尻ってどんなところ？

- ・ 上塩尻まちあるき (2022/11/27実施) から  
- 藤本蚕業プロジェクト主催

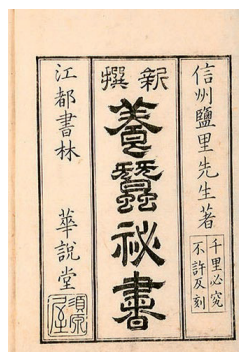


上塩尻まちあるき

2022/11/26 藤本蚕業プロジェクト主催

動画で再生  
20分

## 上塩尻から輩出した蚕種製造家



**塚田与右衛門**  
(1715~1810)

『新撰養蚕秘書』1757



**清水金左衛門**  
(1823~1888)

『養蚕教弘録』1847  
養蚕乾湿計の発明1871



**藤本善右衛門繩葛**  
(1815~1890)

新品種「掛合」1845  
蚕種製造大総代就任1872  
『続錦雑誌』1877~

# 藤本蚕業歴史館の歴史的背景 旧佐藤宗家/藤本善右衛門

前身は蚕種製造家の旧佐藤宗家(当主は藤本善右衛門を世襲)  
1908年、会社組織「藤本蚕業」に発展



藤本善右衛門縄葛(つなね)



蚕卵紙

画像提供: 藤本蚕業歴史館

## 現在も数多く残る蚕種製造民家群

**蚕室造りの民家が残る塩尻地区(下塩尻・上塩尻・秋和)**

塩尻地区で江戸時代前期(1663)から始まった蚕種業は、1800年には蚕種業の本場であった奥州を抜いて日本一の製造地となり、幕末には横浜港から大量の蚕種がヨーロッパに向けて輸出された。蚕種業の盛んだった塩尻地区には今なお多くの蚕室造りの家が立ち並び、

**下塩尻**

旧信越線北塩尻駅  
蚕種製造家らの記録活動により大正9年(1920)5月開業。(現西上田駅)

北国街道  
信濃道分岐で中山道と分かれ、海野村・上田・春日寺を経て北国街道の重江津につなぐ街道。蚕種業の最盛期には蚕室造りの家が立ち並び、今もその面影を残している。

小舟井袖工屋  
日本三次軸の一つ上田軸の織元。江戸時代より蚕種製造を営み、昭和23年(1948)に袖工屋を創業、上田の伝統工芸を今に伝える。

**上塩尻**

塩安山東福寺  
上塩尻村民の信仰のより所であり、子弟の教育の場であった。日本寺院の蚕種製造地。塩尻を創った多くの人々がここで教育を受けた。

藤本蚕業歴史館  
下塩尻を代表した蚕種製造家・藤本(佐藤)家に残る貴重な資料を展示・保存した歴史館。

塩尻小学校郷土資料館  
養蚕・蚕種業に関する貴重な資料が展示され、児童の地域学習などに利用されている。

**秋和**

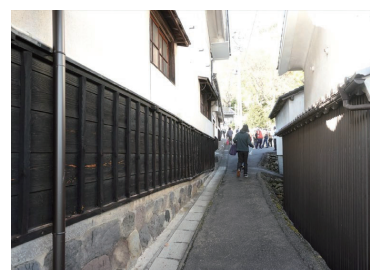
塩摩神社  
農耕・食物・豊作の神である伊弉神を祀る。八十一の夜に行われる例祭に養蚕の金盃期には、上塩尻だけでなく東北信地方で養蚕を営む人々が豊作祈願に訪れた。

明治時代の蚕種販売ポスターが現存する！

ポスターの中に NAGANOKEN SHIOJIRI MURA と英語で記してある！当時の皇都の繁栄ぶりが想像できる貴重な資料。

明治29年(1896)蚕種販売するために販売先へ出した宣伝ポスター。当時のままの形で残る。(個人所蔵)

蚕室造りの民家(平成14年8月～9月に現地調査) 地図上のアルファベットと番号は、平成14年(2002)に調査した蚕室造りの民家で、たくさんの方が当時の蚕種業に携わっていた事が分かる。



# 蚕種製造民家とその歴史的景観



# 文書が物語る上塩尻の並外れた歴史



# 上塩尻の歴史・文化資源の評価

- ・ 1960年代以降、有識者からの関心が続く
- ・ 代表的な学術的研究
  - 工学院大学山崎弘研究室による調査 1989～
  - 東北大学長谷部弘研究Gによる研究 継続

## 上塩尻をめぐる言説・研究 小林昌人の論文(1990)

### 小林昌人の論文「蚕業の先駆者を輩出した上田市上塩尻の集落と民家」(『信濃』1990年1月)



第1図 上塩尻大村の景観 (提供清水憲之助氏  
撮影折井正彦氏 昭和40年頃)

にも大きな影響を及ぼすと共に全国的にも知

藤本善石 節門 文化

「長野県は「製糸王国」とまで言われ、蚕糸業が盛んであった。その中でも上田市は松本市に次ぐ商都で、その経済的基盤となったのは周辺の蚕業であった。その隆盛さは「蚕都上田」とまで呼ばれたほどで、この地方の経済を初め政治や文化など

一はじめに

蚕業の先駆者を輩出した上田市上塩尻の集落と民家

小林昌人は民俗建築学会会長『民家巡礼』(溝口歌子と共著、1961年)でも上塩尻の蚕室民家に言及している。

# 工学院大学山崎弘研究室による上塩尻調査 (1989-92)

上塩尻の養蚕民家集落 (ジオラマ) 1992 藤本蚕業歴史館所蔵



長野県上田市上塩尻の養蚕民家集落  
Scale: 1/500

## 鈴木晶子氏 (工学院大学山崎弘研究室) 修論 「蚕書と養蚕飼育法による家屋構造への影響」(1992)

上塩尻の蚕種製造民家23の家屋を調査しその実測図面を作成



# 杉仁氏(1934~)の近世史研究 (2001、2009)

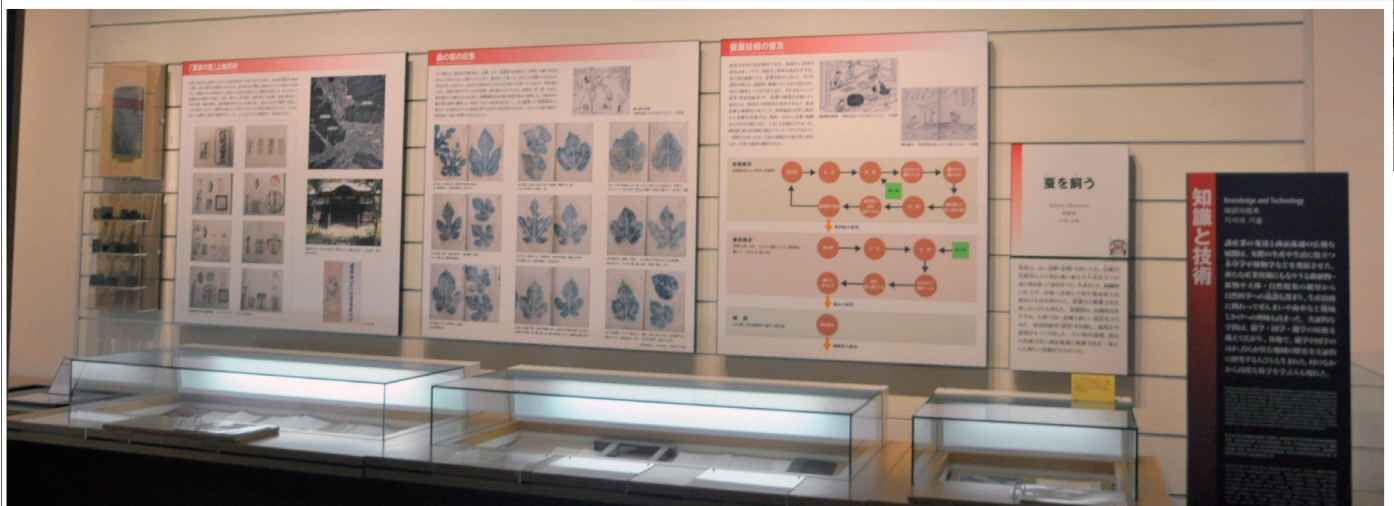
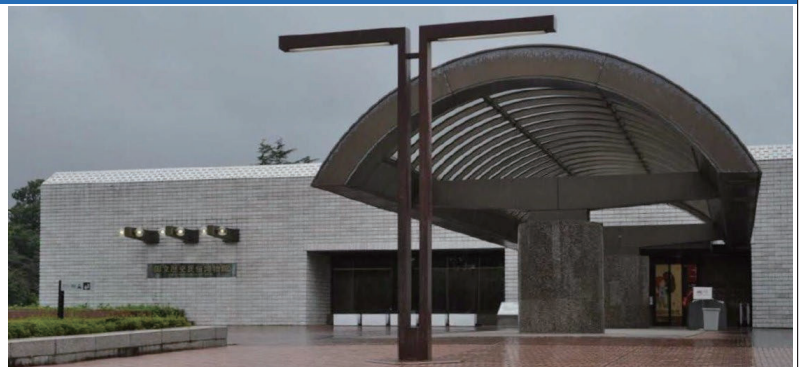


- 2001年1月 『近世の地域と在村文化—技術と商品と風雅の交流』、吉川弘文館
- ☆2009年3月 『近世の在村文化と書物出版』、吉川弘文館
- ※杉仁氏の研究成果は、国立歴史民俗博物館の上塩尻に関わる展示に活かされている。

国立歴史民俗博物館展示  
「商品と技術と風雅の交流」  
俳諧のネットワーク

## 国立歴史民俗博物館(千葉県佐倉市) 蚕種の里「上塩尻」の展示

第3展示室「知識と技術／蚕を飼う」に上塩尻の蚕種製造家・塚田与右衛門、清水金左衛門、藤本善右衛門らの業績が展示がされている。



# 東北大学長谷部弘氏と研究グループ (2006～)

## 近世日本の 地域社会と共同性

—近世上田領上塩尻村の総合研究 I—

長谷部弘・高橋基泰・山内 太編

執筆者

長谷部弘, 村山良之, 山内 太,  
田島 昇, マーティン・モリス, 高橋基泰

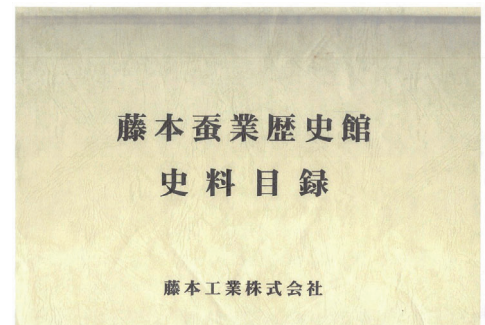
刀水書房

- ・ 2006～2008年度 科研費研究課題「市場経済形成における村落の共同性の実証研究」
- ・ 2009年3月『近世日本の地域社会と共同性—近世上田領上塩尻村の総合研究I』
- ・ 2010年3月『飢饉・市場経済・村落社会—天保の凶作からみた上塩尻村』
- ・ 2022年4月『近世日本における市場経済化と共同性: 近世上田領上塩尻村の総合研II』

## 上田小県近現代史研究会 (1) 藤本蚕業歴史館史料目録



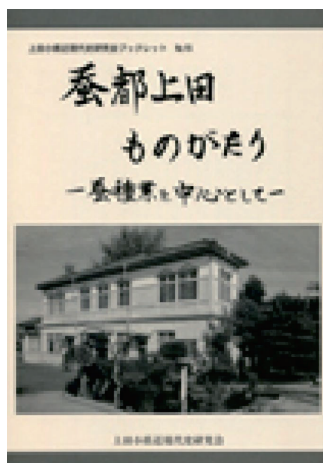
2004～2009  
6年かけ藤本蚕業の史料をアーカイブ化、史料目録作成



画像提供:新津新生氏  
(上田小県近現代史研究会)

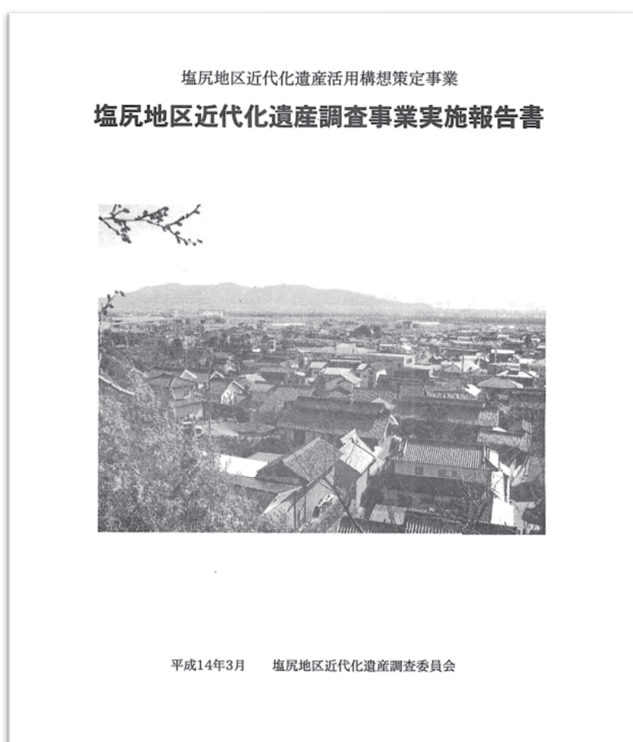
# 上田小県近現代史研究会(2)

## 蚕都上田に関わるブックレットの発刊



- 『蚕都上田ものがたり 一蚕種業を中心として一』2008年
- 『蚕都上田を築き支えた人びと』2010年
- 『蚕都上田を見て歩こう 千曲川右岸の施設・建物編』2012年
- 『蚕都上田を見て歩こう 千曲川左岸の施設・建物編』2012年

# 塩尻地区近代化遺産活用構想策定事業 (2001~2005年度)



- 塩尻地区近代化遺産調査委員会
- ▼2002年3月 塩尻地区近代化遺産調査事業実施報告書
- ▼2003年3月 塩尻地区近代化遺産活用計画報告書
- ▼2003年3月 近代化遺産第2部会全データ
- 塩尻地区近代化遺産活用ガイドブック 編集委員会
- ▼2003年3月 上田しおじり(冊子) 歩こう!まゆの里しおじり」実行委員会
- ▼2004年4月 歩こう!まゆの里しおじり 塩尻地区観光ビジョン策定委員会
- ▼2005年11月 塩尻地区観光ビジョン



# お出かけJ（2005年度）

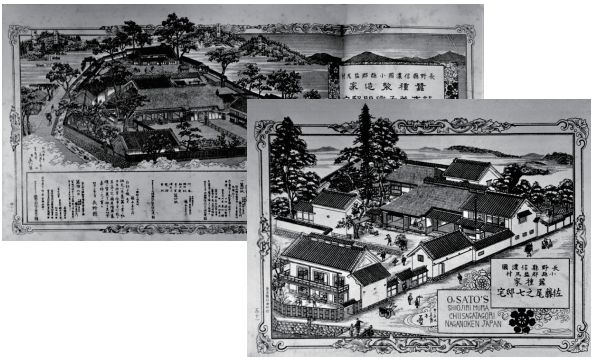
## 城下町上田のまちづくり・景観研究プロジェクト

上塩尻地区  
まちづくり報告書

2006年3月

## 代表的な上塩尻の文化遺産

### 歴史的建造物と景観



### 膨大な一次資料

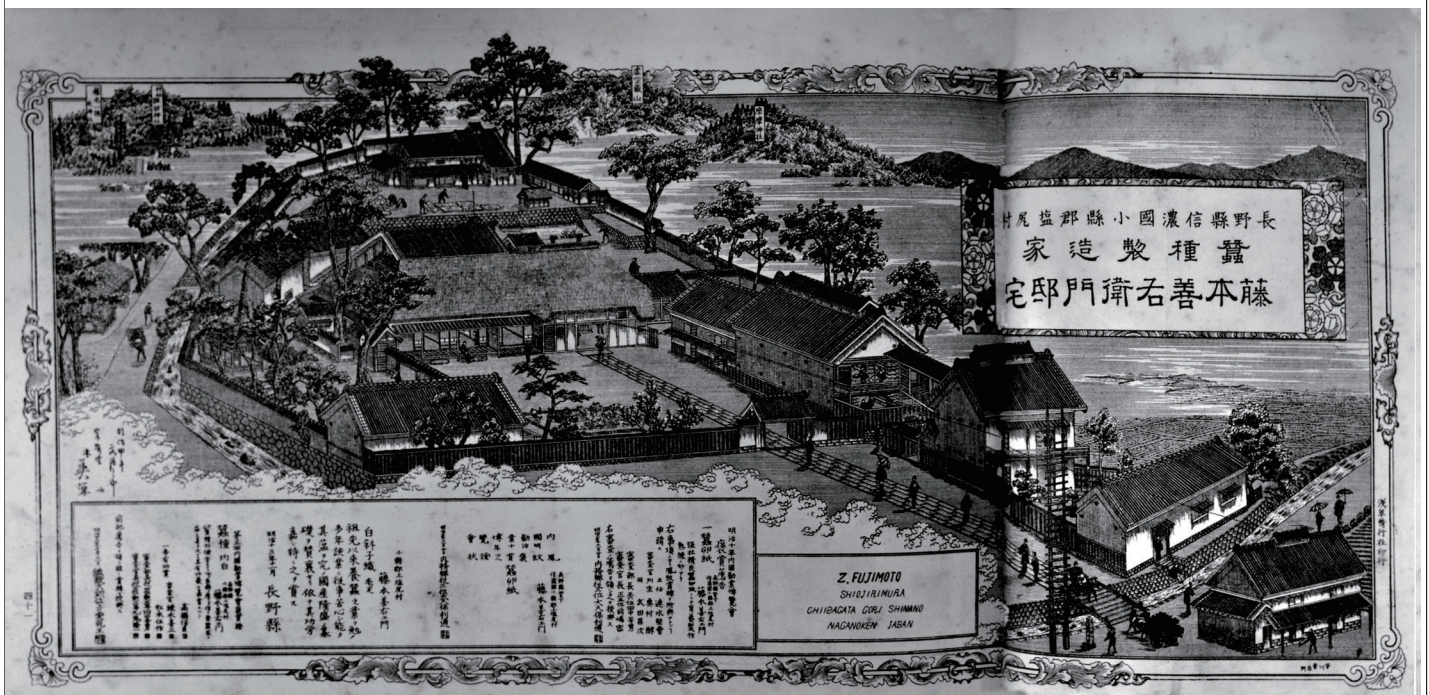


# 藤本関係の敷地と建物

上田市上塩尻



## 藤本善右衛門邸宅(旧佐藤宗家) (日本博覧図1897所載)



『信州上田学アーカイブ』から転載 図版は上田市立博物館所蔵『日本博覧図』(1897)  
<http://d-commons.net/uedagaku/archive1?c=&p=3078>

# 旧佐藤宗家(2003年当時)

外観



外観



外観



外観



「塩尻地区近代化遺産調査事業実施報告書/近代化遺産第2部会データシート」(平成15年)から転載

# 旧佐藤宗家蚕室(2棟)



# 旧佐藤宗家(現在は更地)



## 佐藤尾之七邸宅 (佐藤家住宅 (三ツ引)) (日本博覧図1897所載)

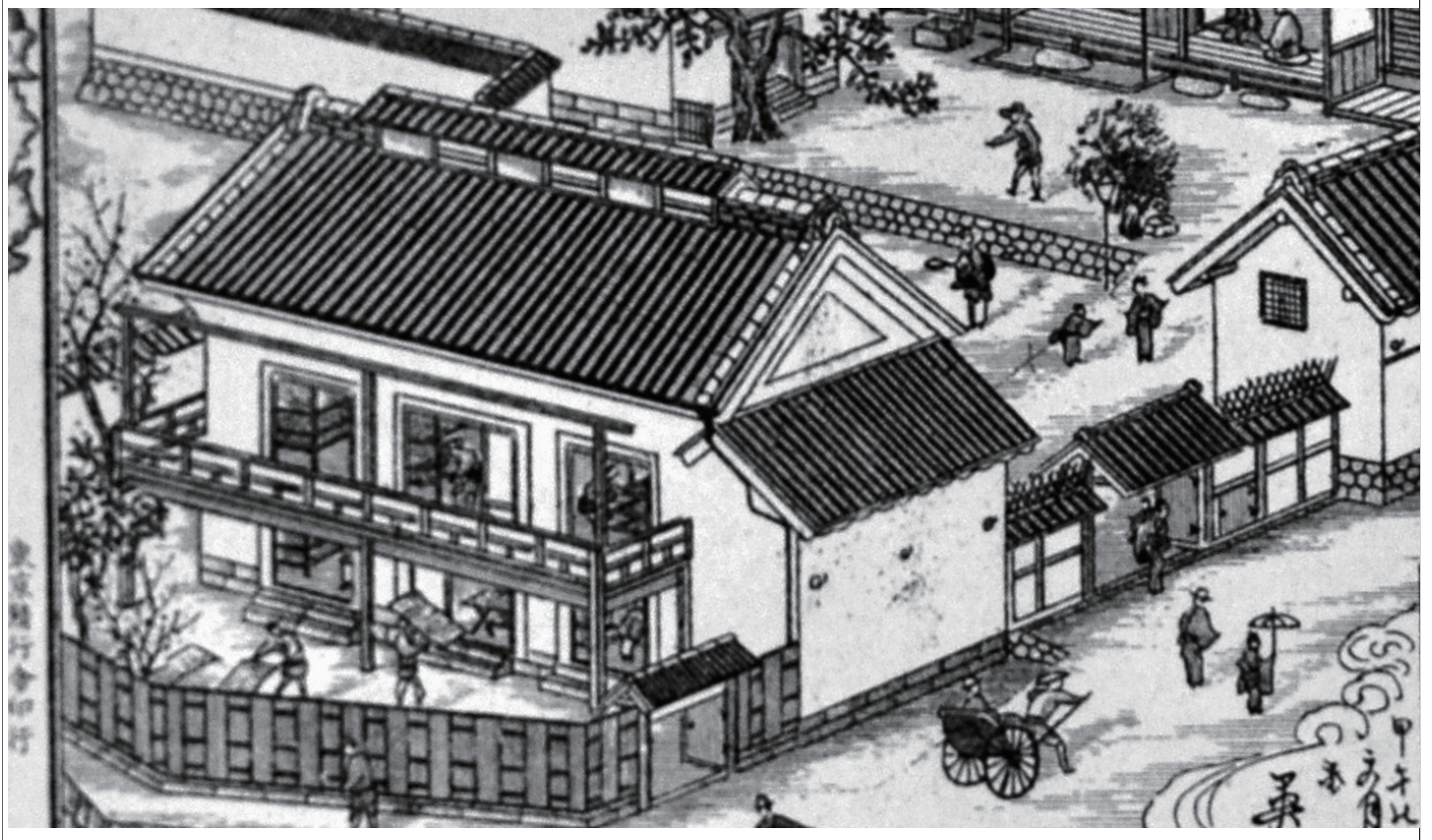


『信州上田学アーカイブ』から転載 図版は上田市立博物館所蔵『日本博覧図』(1897)  
<http://d-commons.net/uedagaku/archive1?c=&p=3080>

# 佐藤家住宅（三ツ引）



## 佐藤家住宅の一部



# 佐藤家住宅（三ツ引）（現存）



佐藤家住宅・蚕室（南側）：2011年



蚕室：1897年『日本博覧図』の図版

〔図版は上田市立博物館所蔵の『日本博覧図』（1897）から撮影〕

## 佐藤家住宅の一部



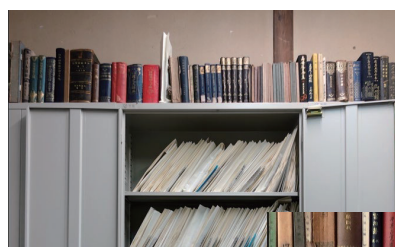
# 佐藤家住宅の一部



## 藤本蚕業歴史館（上田市上塩尻）



**蚕種(蚕の卵)製造企業**  
**蚕種家・藤本善右衛門を継承**  
**1908年、企業体に移行**  
**2009年、藤本蚕業歴史館開館**



# 蚕種製造民家実例紹介 佐藤勇二氏宅の2階蚕室



## 佐藤勇二氏宅の2階蚕室





# 佐藤勇二氏宅の2階蚕室



# 佐藤勇二氏宅の2階蚕室



# 蚕都上田 歴史・文化財マップ

## 1928年、絶頂期の上田(塩尻地区)

### 蚕都上田

<http://www.santo-ueda.jp/>

**市街区 歴史・文化財マップ**

真田氏の領下町であった上田市は、北街道沿の宿場町でもあった。兵衛屋などの有力な商家や養蚕商が陶野町、原町、柳町などに軒を連ねていた。江戸時代後期以降の養蚕業、製糸業の発展によって、市部を隔った上田市(1919年-)は、蚕都と呼ばれるようになった。

市街地の南には製糸業を営む常陸製糸場、小宮山製糸場、養蚕製糸場など7つの工場や上田養蚕株式会社、小泉養蚕学校、上田養蚕専門学校が立地していた。また上田駅には上田倉庫(諏訪倉庫)、上田城址には長野県蚕業試験場上田支場があった。さらに第十九国立銀行をはじめ、信濃銀行(上田銀行)など養蚕業を支えた多くの銀行が立地していた。これらの銀行は製糸業や養蚕商、有力商人によって支えられていた。民衆のための娯楽施設が数多く建てられ、市街地と養蚕製糸業の盛んな塩尻、丸子、真田を結ぶ鉄道の開通により、市街住民だけでなく製糸工など近郊から訪れる多くの人々で賑わった。

**養蚕製糸工場**

上田支場

三吉米製陶場

小泉養蚕学校(明治25年(1892)創立)の初代校長。上田養蚕専門学校教授を務めた。日本の養蚕の近代化に多大な貢献をした。(上田城跡の裏山)

**常陸製糸場**

明治22年(1889)真田養蚕場が建てた上田最初の養蚕製糸場。海軍省が働き高気候を採用品とした上田-小市地方の製糸業をけん引した。大正6年(1917)より小宮山製糸場。(現民権碑南西)

**小宮山製糸場**

明治22年(1889)真田養蚕場が建てた上田最初の養蚕製糸場。海軍省が働き高気候を採用品とした上田-小市地方の製糸業をけん引した。大正6年(1917)より小宮山製糸場。(現民権碑南西)

**信濃銀行**

大正4年(1919)、上田男子小学校明治記念館として建設。アーチ型ファサードの美しい建物。大正15年(1929)から昭和45年(1970)まで上田市立図書館。蚕都の経済力を背景に革新的・先駆的な気風が支配した時代

**上田養蚕専門学校**

大正4年(1919)、上田男子小学校明治記念館として建設。アーチ型ファサードの美しい建物。大正15年(1929)から昭和45年(1970)まで上田市立図書館。蚕都の経済力を背景に革新的・先駆的な気風が支配した時代

**小宮山製糸場**

明治22年(1889)真田養蚕場が建てた上田最初の養蚕製糸場。海軍省が働き高気候を採用品とした上田-小市地方の製糸業をけん引した。大正6年(1917)より小宮山製糸場。(現民権碑南西)

制作:蚕都上田プロジェクト

<https://www.mmdb.net/silknet/archive/ueda/page/A0139.html>



# 蚕都上田歴史年表

## 安土桃山～近代(昭和)

1890	1900	1910	1920	1930
<p>1884年7月、1886年9月松方デレにより生糸輸出が大きく低迷</p> <p>1885-1893第3回「道楽令」七道閉鎖事業</p> <p>1888年7月信越線直江津-軽井沢開通</p> <p>1884年7月「原紙有毒事件」三吉米製陶場、養蚕を立証</p> <p>1891年松方大臣が信越線300万枚の長瀬村153万枚の養蚕を奨励</p>	<p>1894年7月-1895年9月日清戦争</p> <p>1893年信越線全通</p> <p>1888年7月信越線直江津-軽井沢開通</p> <p>1891年松方大臣が信越線300万枚の長瀬村153万枚の養蚕を奨励</p> <p>1900年3月-05月日露戦争</p> <p>1902年信越線/井線全通</p> <p>1905年中央線岡谷開業</p>	<p>1914年3月-1918年7月第一次世界大戦(日米大戦)</p> <p>1919年8月上田市制実現、国庫補助を獲得し水道事業着工</p> <p>1914年3月片倉組松本製糸場今井五介、購買上前提に一代交種無料配布</p> <p>1917年6月「上田養蚕株式会社」設立(日本最大規模)</p> <p>1917年6月「上田養蚕株式会社」設立(日本最大規模)</p> <p>1919年8月「上田養蚕株式会社」設立(日本最大規模)</p>	<p>1920年4月「上田養蚕株式会社」設立(日本最大規模)</p> <p>1920年4月「上田養蚕株式会社」設立(日本最大規模)</p> <p>1920年4月「上田養蚕株式会社」設立(日本最大規模)</p> <p>1920年4月「上田養蚕株式会社」設立(日本最大規模)</p> <p>1920年4月「上田養蚕株式会社」設立(日本最大規模)</p>	<p>1926年昭和恐慌</p> <p>1927年昭和恐慌</p> <p>1929年昭和恐慌</p> <p>1930年昭和恐慌</p> <p>1931年昭和恐慌</p> <p>1932年昭和恐慌</p> <p>1933年昭和恐慌</p> <p>1934年昭和恐慌</p> <p>1935年昭和恐慌</p> <p>1936年昭和恐慌</p> <p>1937年昭和恐慌</p> <p>1938年昭和恐慌</p> <p>1939年昭和恐慌</p> <p>1940年昭和恐慌</p> <p>1941年昭和恐慌</p> <p>1942年昭和恐慌</p> <p>1943年昭和恐慌</p> <p>1944年昭和恐慌</p> <p>1945年昭和恐慌</p> <p>1946年昭和恐慌</p> <p>1947年昭和恐慌</p> <p>1948年昭和恐慌</p> <p>1949年昭和恐慌</p> <p>1950年昭和恐慌</p> <p>1951年昭和恐慌</p> <p>1952年昭和恐慌</p> <p>1953年昭和恐慌</p> <p>1954年昭和恐慌</p> <p>1955年昭和恐慌</p> <p>1956年昭和恐慌</p> <p>1957年昭和恐慌</p> <p>1958年昭和恐慌</p> <p>1959年昭和恐慌</p> <p>1960年昭和恐慌</p> <p>1961年昭和恐慌</p> <p>1962年昭和恐慌</p> <p>1963年昭和恐慌</p> <p>1964年昭和恐慌</p> <p>1965年昭和恐慌</p> <p>1966年昭和恐慌</p> <p>1967年昭和恐慌</p> <p>1968年昭和恐慌</p> <p>1969年昭和恐慌</p> <p>1970年昭和恐慌</p>

**上田駅開業**

1888年2月

松尾町・天神町の誕生

城下町から商業都市へ

**器械専用一代交雑種へ移行**

1914年3月片倉組松本製糸場今井五介、購買上前提に一代交種無料配布

1917年6月「上田養蚕株式会社」設立(日本最大規模)

**「蚕種王国塩尻村」の隆盛**

1921年塩尻村、冷涼地長年の蚕種人工化成功。以後製造的

**北塩尻駅開業**

1925年北塩尻駅冷涼地産産開始

**「糸の町丸子」の隆盛**

1912年下丸子、初代丸子町長就任

**昭和恐慌**

1930年5月

**「依田社」設立**

1889年2月下丸子、丸子に器械製糸組合「依田社」設立

**丸子町駅開業**

1918年丸子町駅開業

**「小泉養蚕学校」開校**

1892年小泉養蚕学校開校

**観光開発**

1928年観光開発

**「全国一」金融機関総数、銀行8・類似会社83**

1885年「全国一」金融機関総数、銀行8・類似会社83

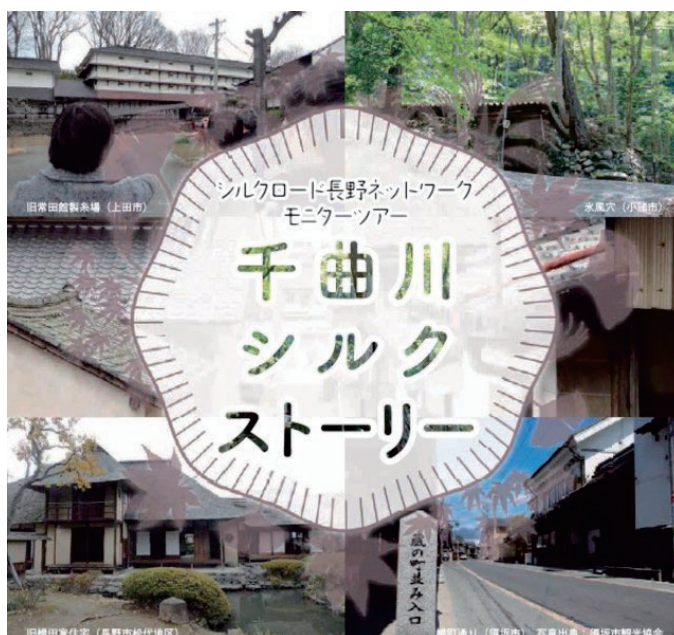
**「依田社」設立**

1889年2月下丸子、丸子に器械製糸組合「依田社」設立

制作:蚕都上田プロジェクト

<https://www.mmdb.net/silknet/archive/ueda/page/A0270.html>

# 千曲川ライン＝蚕糸業ベルト地帯 観光資源としての可能性



## 未来に向けて 上塩尻の歴史と文化遺産の活用



上塩尻の景観と個々の民家の保全活用策  
御関心のある方々から提案、コミットを

地域づくりと地域学習のための  
活動とネットワークづくり(住民と有志)

よろしければ藤本蚕業歴史館へお越しを  
サロンのようにオープンすることを計画  
(2023年度)

---

令和4年度長野県地域発元気づくり支援金事業「藤本蚕業資源活用事業」  
佐藤家住宅・旧佐藤宗家等見学会／蚕種の里「上塩尻」まちあるき  
実施記録&未来に向けて

【発行日】2023年3月31日

【編集・発行】藤本蚕業プロジェクト（代表：前川道博）

【事務局】長野大学前川道博研究室

〒386-1298 長野県上田市下之郷 658-1

TEL 090-22270-5074 メール [maekawa@nagano.ac.jp](mailto:maekawa@nagano.ac.jp)

【ウェブサイト】藤本蚕業デジタルコモンズ

<https://d-commons.net/fujimoto-dc/>

